

漁海況月報

平成 17 年 7 月 1 日

No. 7

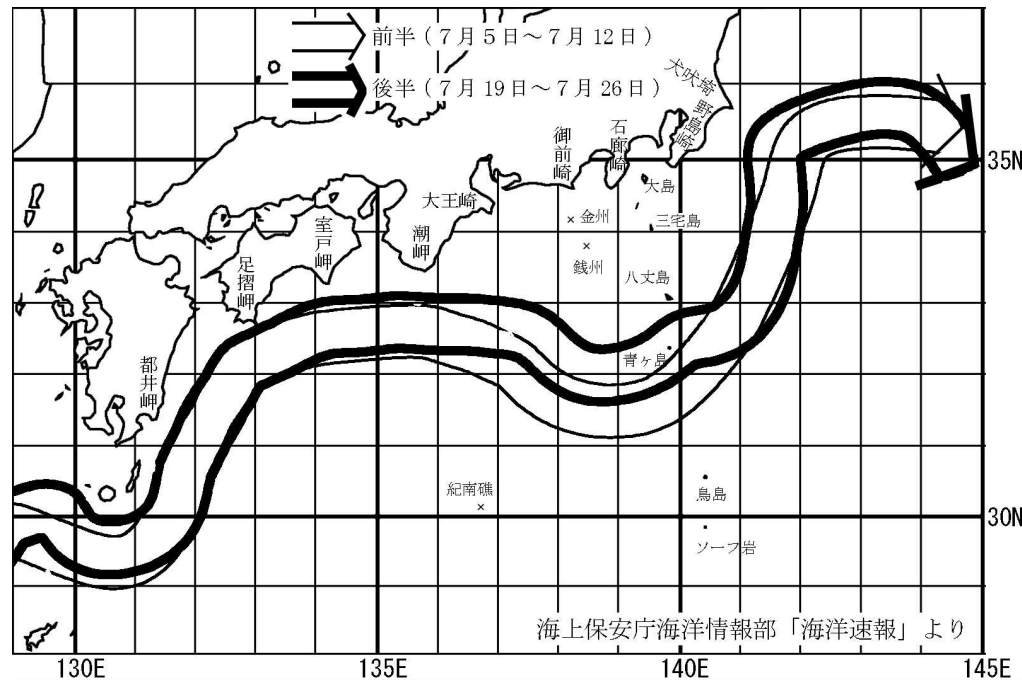
~7月31日

静岡県水産試験場

(電話 054 627 4815)

静岡県水産試験場伊豆分場

(電話 0558 22 0835)



【黒潮流路】

黒潮は、前半には九州東岸から四国沖にかけて接岸気味に流れ、潮岬沖から南東に向かい、石廊崎沖 31.5° N 付近まで達した後、伊豆諸島の東 140~142° E を北上し、房総沖を離岸気味に流れた。前月に比べ遠州灘沖の蛇行の規模は縮小し、蛇行北上部も大きく東へ移動した。

後半には、九州東岸から四国沖にかけては前半と同様に接岸気味に流れ、潮岬沖の 32.5° N 付近を東に向かい、伊豆半島沖の 32° N 付近まで小蛇行した後、青ヶ島付近を通り伊豆諸島の東 141~142° E を北上した。遠州灘~伊豆諸島海域では接岸傾向がみられ、御前崎沖では前半に比べ 35 マイル接岸した。

【県下沿岸域】

県下の定地水温は、相模湾側では 17~25 台、駿河湾東部では 21~25 台、駿河湾西部では 19~26 台で経過した。平年に比べ、上旬には駿河湾東部でやや低め、中旬には湾奥部を除き低め、下旬には駿河湾側でやや低めとなった。中旬前半には、湾の西側に位置する稲取、下田、焼津、地頭方では数日間平年よりも 2~3 低めとなった。沿岸湧昇の他、下田、稲取では同時期に伊豆諸島北部海域に分布した冷水域が要因の一つと考えられる。

【竿釣近海カツオ】

7月の県内主要5港(沼津、清水、焼津、小川、御前崎)における近海カツオの水揚量は364トンで前年同期の82トンを大幅に上回った。魚価は171円/kgで、前年同期を大きく下回った。

中型竿釣船の記録(QRY)及び御前崎市場での調査によれば、7月の漁況はおおむね以下のとおり推移した。

静岡県船は 32°~34° N、148°30'~140° E と 36°~39° N、142°~150° E で小、極小、中、大、チン、特大カツオを漁獲した。

小型竿釣り船は銭洲、黒瀬、ハロース、イナンバで体長範囲 35~70cm (モード 43~48cm) のカツオを漁獲した。

竿釣近海カツオ水揚量 (県内主要5港)

期 間	水揚量 (トン)	水揚 隻数	水揚量 / 隻 (トン)	平均単価 (円 / kg)
17年7月上旬	135	26	5.2	207
中旬	138	16	8.6	136
下旬	91	11	8.2	170
17年7月計	364	53	6.9	171
16年7月計	82	31	2.6	321
15年7月計	149	41	3.6	156

【まき網】

小川港では、マイワシは水揚されなかった。カタクチイワシは6.6トン水揚げされ、平年同期(12.8トン)の52%と低調であった。

沼津港では、マイワシは16.2トン水揚げされ、平年同期(548.8トン)の3%と低調であった。カタクチイワシは水揚されなかった。

2005年7月

定地水温の旬平均値 ()

(下段は偏差)

期 間	伊東	稲取	下田	雲見	沼津	焼津	地頭方
上 旬	22.5	21.6	21.8	22.2	22.4	23.5	22.7
	0.5	0.3	0.2	-0.7	-0.5	0.7	0.1
中 旬	23.5	20.8	20.1	23.1	24.3	23.1	21.7
	0.5	-1.0	-1.7	-0.8	0.3	-0.7	-1.9
下 旬	24.5	22.9	23.3	23.3	24.4	24.4	24.1
	0.2	0.2	0.4	-1.6	-0.4	-0.4	-0.8
月平均	23.5	21.8	21.6	22.9	23.8	23.7	22.8
	0.4	-0.1	-0.5	-1.0	-0.1	-0.1	-0.9

静浦港では、マイワシは36kg水揚げされ、平年同期(101.4トン)を大きく下回った。カタクチイワシは144.7トン水揚げされ、平年同期(251.5トン)の58%と低調であった。

伊東港では、マイワシは20.7トン水揚げされた。カタクチイワシは9.1トン水揚げされた。

[サバ棒受網]

小川港に水揚げされたゴマサバは、前月の水揚量(1,024トン)をやや下回る881トンであった。漁場は、銭洲、三宅~三本に形成され、尾叉長28~34cmの大きさのものが主体に水揚げされた。1kg当たりの平均単価は37円と低調で、前年同期(63円/kg)を下回った。

小川港 サバ類(たもすくい・棒受網漁業)水揚量

期 間	水揚量 (トン)	日数	延隻数	1隻当り (トン)	漁 場
平成17年 上旬	343	5	16	21.4	銭洲、三本、三宅
7月 中旬	253	4	14	18.1	銭洲
下旬	285	4	12	23.7	銭洲、三宅
計	881	13	42	21.0	- - - - -
平成16年7月	751	11	41	18.3	三宅、高瀬
平成15年7月	1,867	17	71	26.3	三宅、高瀬、銭洲

[シラス船曳網]

1日1か統当りの水揚量は、駿河湾で389kg、遠州灘で344kgだった。主要6港平均では360kgと前年同期の181%、平年同期(過去5か年平均:479kg)の75%と、前年を上回り、平年を下回った。7月の総水揚量は908.4トンと、前年同期の204%、平年同期(1,234.8トン)の74%に当り、前年を大きく上回り、平年を大きく下回った。平均単価は874円/kgと平年同期(621円/kg)を上回った。

シラス水揚量(主要6港)

漁 港	水揚量 (トン)	日数	延統数	平均漁獲量 (kg/統・日)	平均単価 (円/kg)
新 居	65.6	16	221	297	682
舞 阪	279.4	16	777	360	742
福 田	160.2	16	442	362	896
御前崎	65.3	18	216	302	893
吉 田	157.8	18	466	339	938
静 岡	180.2	17	403	447	929
平成17年6月計	908.4	-	2,525	360	847
平成16年6月計	444.3	-	2,236	199	841
平成15年6月計	1,446.7	-	2,745	527	534

[定置網]

平成17年7月、伊豆半島東岸大型定置網8か統(伊豆山、古網、赤石、川奈、富戸、赤沢、北川、

谷津)における水揚量は342トンであった。1漁場当たり水揚量42.7トンは前年36.7トンの1.2倍で、平年値(昭和57~平成16年平均値)35.2トンの1.2倍であった。

魚種別にみると、サバ類129.8トン(前年の95%、平年の1.5倍) マイワシ88.3トン(前年の89倍、平年の2.0倍) マアジじんた36.9トン(前年の8.2倍、平年の2.5倍) マアジ32.9トン(前年の42%、平年の1.1倍) トビウオ12.1トン(前年の52.7%)の順が多かった。

サバ類は川奈、赤石、北川、谷津を中心に入網し、ほとんどがゴマサバであった。尾叉長はゴマサバが27cm、31cmと34cmにモードがみられ、マサバは量的には少ないが42~43cmに尾叉長の中心があり大型個体が目立った。マイワシは北川、富戸を中心に入網し、1982年以降で3番目に多く漁獲された。被鱗体長の中心は12.5~14cmであり、今年の初めに生まれた群と思われた。マアジじんたは谷津、富戸、伊豆山を中心に入網し、尾叉長の中心は11~12cmであった。マアジは6月末以降急激に漁獲量が減少したものの、赤石を中心に入網した。尾叉長のモードは18cmであったが、尾叉長の中心が24~25cmの大型魚も漁獲された。また、トビウオは川奈、北川を中心に入網し、尾叉長の中心は20~21cmであった。

漁場別水揚量は、マイワシの漁獲が多かった北川(93トン)、サバ類、トビウオの漁獲が多かった川奈(51トン)、サバ類、マアジの漁獲が多かった赤石(49トン)の順であった

[調査船の動向]

富 士 丸

~7月24日 東沖カツオ・ピンナガ調査(24日間)

駿 河 丸

6月30日~7月1日 三宅島沖にてサバ漁場調査(2日間)

7月4~5日 地先定線観測(駿河湾・遠州灘・伊豆)(2日間)

7月6日 地先定線観測(遠州灘)(1日間)

7月7~8日 久能沖にてトラフグ試験操業(2日間)

7月11~12日 駿河湾内にてサクラエビ産卵調査、IKMT調査(2日間)

7月13日 駿河湾内にて静大深層水調査(2日間)

7月14~15日 地先定線観測(遠州灘・伊豆)(2日間)

7月20~21日 駿河湾内にてサクラエビ産卵調査、シラス調査(2日間)

7月22日 駿河湾内にてサクラエビ産卵調査(1日間)

7月29日 駿河湾内にてサクラエビ産卵調査(1日間)